

市の将来像について

1 市の将来像

市の将来像は、まちづくりの総合的な目標であり、将来のビジョンを描くものになります。基本構想に盛り込まれる人口ビジョン、土地利用構想はもとより、政策分野と施策の体系や各種計画等のよりどころになる、いわば総合計画の根源にあたります。

2 将来像の検討について

(1) 市内外への発信を配慮した将来像

将来像は、今後のまちづくりの方向性と8年後におけるまちの姿を示すものであるため、「まちづくりの考え方」を明確にわかりやすく表現しなければなりません。そして、この「まちづくりの考え方」は、市民はもとより、国・県などの関係機関、他自治体、その他関係者等、外部に対しても効果的に伝えていくべきもので、言葉の選択、表現方法など、市内外への両面性を配慮して描くことが必要になります。

(2) まちづくりの可能性と夢を育む将来像

地域を取り巻く社会情勢、自治体の財政状況など、まちづくりには様々な課題がありますが、それらは、多くの自治体に共通しています。このような中、市民が共感し、希望を持って共に歩んでいけるような共通目標となる将来像を描くことが望まれます。

(3) 分かりやすさとインパクトのある将来像

総合計画を通じて「まちづくりの考え方」を効果的に伝え、将来像に対し共通理解が得られ、心に訴えかけるものでなければなりません。そのため、将来像は総合計画の中で最も分かりやすく、インパクトのある工夫が必要で、文章量は少なく端的かつ明瞭に表現することが望まれます。

(4) 地域性、独自性豊かな将来像

将来像の検討にあたっては、有形無形の地域の特性や資源などを再認識し、これを土台に他の地域にない言葉（キーワード）を選び、市民に対して親しみと誇りをもたらすような将来像を描く必要があります。